



サイの仲間 パラケラテリウム

Paraceratherium

古生物について知りたい時、形は化石から推測します。一方、動きは現生生物の比較によって考えます。ここから推測できる古生物の動きを考える、からくり仕掛けのペーパークラフトです。大昔の暮らしを想像してください。

イラスト：小田隆



恐竜たちがいなくなった陸に小さな夜行動物だった哺乳類がいっせいに広がりました。気候が温暖になり、現生の植物が現れ、今と同じ種類の哺乳類が誕生します。最初に栄えた草食動物は奇蹄目です。今ではサイ、ウマ、バクの仲間しかいませんが、約5千万年前の始新世には13科、80属以上が暮らしていました。史上最大の陸上哺乳類パラケラテリウムは、この頃現れたサイの仲間です。巨体に惹かれた化石研究者が競って探し、さまざまな名前がつけました。別名であるインドリコテリウム、バルチテリウムのほうがおなじみかもしれません。化石は中央から北東アジアに広がっており、歯の形から枝先の木の葉を食べていたと思われます。

走るといえばウマを思い出しますが、サイも体重を支える強い足で自動車なみのスピードで走るのです。その祖先の性質を持つパラケラテリウムは、長い足で速く走り、食べ物を求めて長い距離を移動できたようですが、それでも漸新世の氷河期を生き延びることはできませんでした。

哺乳類がいっせいに多様化した時代の陸の王者パラケラテリウムをゆうゆうと走らせましょう。これの絶滅後に生まれた仲間が私たちにつながることを思いながら。

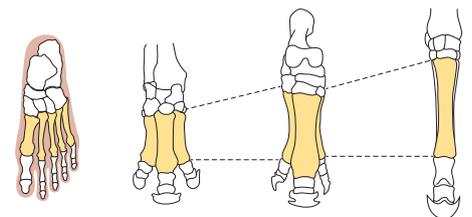


走るクロサイ親子

サイの大腿骨はゾウの3倍の強さで100トンの力に耐える。動物界最強の骨と丈夫な筋肉がスピードをうむ。

写真：Peter Delaney

奇蹄目はつま先で走る。中足骨が長い方が速く走れる。



ヒト

サイ

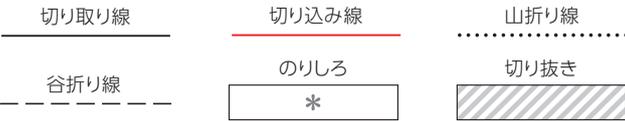
パラケラテリウム

ウマ



パラケラテリウム 組み立て説明図

- 切り取り線にそって、カッターナイフやはさみでいねいに切り抜きます。
- 折り線は、鉄筆や芯を出していないシャープペンシルなど、適度に先のとがったものを定規にあて、まっすぐ線を引くようにして筋をつけてから折り曲げます。
- すべての折り線をいったん折り曲げてから、説明図にしたがってのりづけして組み立てます。細かい部分の組み立てには、ピンセットを使うと便利です。
- のり付けには木工用接着剤を使います。いったん小皿に出してから、つまようじを使って薄くむらなく塗りましょう。



1 台座を組み立てます。

底から差し込み、前端的中央に合わせてのりづけします。

2 背中丸めてのりづけします。

体の前後に横長の穴が空きます。

3

きれいに丸めてのりづけします。

4 同じ色の▲が向き合うように直角に差し込んでのりづけします。

22は丸めて差し込むだけ。

5

棒は自由に回転します。

穴に通すだけ。

コマ4 (17 18) と同様に組み立て、差し込んでのりづけします。

6

長い軸

向きに注意!

台座をたわめながらはめ込み、パーツの先を3箇所から出します。

7

軸ののりしろを開いてのりつけします。

軸に差し込んでのりつけします。

8

軸と四角い穴を合わせて裏面に貼ります。

底にはめこんでのりつけします。

9 体の前後の穴から差し込み、背中から指を入れて11を押し下げようしながら、同じ色ののりしろを貼り合わせます。

パーツを折らないよう注意!

1つずつ慎重に!

10 前後の脚としっぽをのりつけします。

11 頭と首をのりつけてから、背中にのりつけて完成です。

体をつぶさないよう力加減に注意!

鼻先は丸めてからのりつけします。

顔は、頭の内側 → あごの下の順に貼ります。

ハンドル穴に指を差し込んで回すと、パラケラテリウムが走ります。

デザイン：坂啓典(図工室)